

## コロナ禍のフランス——外出制限時の性別役割分業

*France in the Time of Coronavirus: Sexual Division of Labor During Lockdown*

フランスでは、3月12日20時、マクロン現大統領<sup>1</sup>が新型コロナウイルスに関するテレビ演説を行い、感染拡大減速のため、保育所、学校、大学などの閉鎖を指示し、3月16日より実行された。ここで、フランス市民の生活は一変する。

大学閉鎖時、教授や准教授などの終身雇用されている教員や研究者は、仕事を遠隔でできるという特権があり、公務員として給与は維持された。しかし、博士課程の院生や非常勤教員など安定した給与等がない者にとって、状況ははるかに困難だった。大学で働く女性の過半数は、外出制限時、おそらく自分の研究より育児を優先した。男性よりも、女性の方が、ケアを重要視する傾向があっただろう。筆者自身も、在宅で育児をしながらオンラインで授業を行った。また、主に女性の同僚とともに、自分の研究よりも、事務的任務や、遠隔授業にうまくついていけず途方にくれている学生のフォローなどに時間を費やすことになった。

現在も様々な問題が浮上しているが、外出制限時に露呈した性別役割分業問題について述べる。

マクロン大統領のよく使う表現に「ザイルの先頭に立つ者」(premiers de cordées)という表現がある。例えば、2017年、「才能を持ち、成功を成し遂げる男性や女性たちがいる。そのような先頭に立つ者たちを私は信頼するし、賞賛する。(彼らが他のフランス市民たちよりも多くの富を手にする者だからと

<sup>1</sup> 右派中道のLREM (共和国前進) という新しい党 (2017年に作られた党である)。

いって)彼らに石を投げるようなことをしたら(フランスを支えている)ザイルそのものが転落してしまう」と言って、フランスにおける大企業の経営者などを讃えていた。しかし、このコロナ禍の外出禁止時、「ザイルの先頭に立つ者」たちは自宅でテレワークをしたに過ぎず、実際に、この緊急時フランス市民の生活を支えたのは、「地味でつらい仕事をする者」(premiers de corvée、premiers de cordéesをもじった表現)、すなわち、清掃員、トラック運転手、看護師、看護補助官、レジ係などだった。フランス語で、これらの仕事を意味する単語の多くが女性の性別を表すのは偶然ではない。これらは、今でも女性の仕事である(仕事によっては9割が女性に占められている)。そのため、この時期に働かざるを得なかったのは、多くが女性で、子どものいる母親だった。

一方、家庭においても母親には二重の責任が負わされている。外出制限時、被雇用者のうち、父親に比べ2倍の数の母親が、子どもの世話をするために仕事を中断しなければならなかった。

被雇用者のうち育児のための特別欠勤を許されなかった者のなかで、1日4時間以上子どもと過ごしたのは、女性の場合80%、男性は52%だった。

普段でも、フランスの女性は男性パートナーよりも多くの家事を担当している。これは30年間ほとんど変化していない。国立統計経済研究所(INSEE)の最新の主要な統計調査によると、2015年、「配偶者が二人とも雇用されている場合、女性の95%が1日10分以上家事に費やすのに対し、男性の場合は74%である。この差は、週末になると小さくなる。週末には、男性が普段よりも買い物や掃除などを担当するからだ。曜日に関係なく、女性は料理、掃除、洗濯を含む家事を多く担当していて、それは毎日行われなければならない類のものである。一方、男性は、日曜大工、ガーデニング、住まいの修繕作業など、毎日行われなくてもいい類のものを担当することが多い。」<sup>2</sup>とされている。

---

<sup>2</sup> カップル、家族、ワークライフバランスについて。Fiche thématique, couple, famille et vie active. INSEE, 2015, <https://www.insee.fr/fr/statistiques/2017520?sommaire=2017528>

子育て世帯においては、学校がないことにより、子どものための1週間の献立、時間割の準備、計画的な食料買い出し、宿題、オンラインレッスンなど、新しい家事・作業の分担が必要となった。子育て支援ネットワークや、学校教育支援のグループなどがオンラインで作成されたが、それらに関与したのはほぼ母親のみだった。

政治家でフェミニストのカロリヌ・ド・アス (Caroline DE HAAS) が、WhatsAppアプリを使って「外出制限時の子育て」というグループを作った。そのグループ内で、親のための「サバイバルのためのアドバイス」が行われた。政府も、「コロナ禍における親子関係」というオンライン情報サイトを公開した<sup>3</sup>。外出制限時は、残念ながら、DVや家庭内暴力が悪化し、これに関しては、オンラインの情報は必ずしも役に立たなかった。やはり、DVや虐待が起こった場合の唯一の解決策は、自分だけのスペースを持つこと、または相手や子どもと一時的に離れる時間やスペースを作ることだろう。だが、このことは外出制限時には難しいことだった。

脆弱な立場に置かれた人々は、さらに病の危機に晒され、彼らの日常生活や育児・子どもの教育などは、さらに難しくなった。この状況下、フランスで注目されることになったのは、社会階級、性別、人種による構造的不平等である。

---

<sup>3</sup> <https://solidarites-sante.gouv.fr/grands-dossiers/etre-parent-s-en-periode-d-epidemie-de-coronavirus/>